

電気通信大学 平成18年度シラバス

授業科目名	国際技術協力論		
英文授業科目名	International Technical Cooperation		
開講年度	2006年度	開講年次	3、4年次
開講学期	5、7学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-上級科目-上級講義		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	濱野 巨男		
居室	本部棟5階		

公開E-Mail	授業関連Webページ
n-hamano@office.uec.ac.jp	

<p>【主題および達成目標】</p> <p>21世紀においてもなおわが国が取り組む重要な課題の一つが国際協力であり、毎年高い国家予算を投じてきている。</p> <p>国際電気通信連合は、電気通信分野において開発途上国に対する技術援助を促進し提供する事をその目的の一つとして既に掲げている。</p> <p>国の近代化、地域社会の開発並びに科学技術振興の基礎として、情報の疎通、蓄積、検索、処理を中心とした情報通信技術はきわめて重要である。この観点から、広義の情報通信を専攻している学生が、開発途上国に対する電気通信、情報処理等に関する技術協力、技術移転を含む開発援助について、国際的・国内的政策、具体的な協力実施方法ならびに協力プロジェクトの現状及び評価方法を学習する事をこのコースの目的とする。</p>
--

<p>【前もって履修しておくべき科目】</p> <p>特になし</p>
--

<p>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</p> <p>特になし</p>

電気通信大学 平成18年度シラバス

【教科書等】

授業の中で参考資料などを配布する。

【授業内容とその進め方】

1. 日本の国際協力、ODA、現状と課題
2. 国際電気通信連合における技術協力の現状と課題
3. 日本の情報通信分野における国際協力の現状と課題
4. 技術協力における国際協力機構（JICA）の役割
5. 途上国における情報通信の役割と開発
6. 日本におけるNGOの役割、現状及び課題、APIC（国際協力推進機構）の役割
7. 国際システムにおける技術協力の現状と課題

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

各講師の授業内容に基づくレポートの評価を行う。

【オフィスアワー：授業相談】

適宜相談に応じるが、電話などで事前にアポイントを取ること。

【学生へのメッセージ】

国際協力、技術協力の分野で、将来活動を目指す人も、また日本の国際社会での役割について関心を有する人も共に考え認識を深めよう。

【その他】

講師の都合等により、授業スケジュールが一部変則的になっていますので、「平成18年度 国際技術協力論 授業スケジュール」（授業中に配布、浜野教授室でも入手可能）を必ず参照してください。